



I-OPEN
PROJECT 22
REPORT

I-OPENER'S VOICE

メンタリング参加者の想い



テクノロジーで農業をもっと楽しく！

日吉 有為 株式会社ハタケホットケ

このプロジェクトは大変意義深く、経営には知財が必要で、強い味方になることを実感しました

塩田 真由美 株式会社アトリエMay



海と魚を守るレジ袋を通じて海洋ごみ問題を真剣に考え、海洋国として海の豊かさをまもろう！

佐藤 元一/学生4名 株式会社シモジマ

医療費適正化により、未来に希望が持てる社会を実現する

若子 みな美 株式会社ORANGE kitchen



自社の強みを含めた現在地を再認識した上で、思い・夢をもとに進むべき方向性が確認できた

渡邊 俊・渡邊 邦彦 株式会社コーチャー

商標の活用について思いがけない手法があることを知ることができました。同時にできること、できないことも明白になったのでとても有意義な時間をもつことができました

早川 薫 早川しょうゆみそ株式会社



知財を知る事で自社の強みも理解でき、他社との差別化ポイントを明確に打ち出す事が出来る

田澤 恵津子 エシカルパンパー株式会社



防災・アウトドア用品の企画開発を通して、被災者の困りごとや負担を減らしたい

苔縄 義宗 株式会社コケナフ



文化をリンカネーションするために、漬物の認証コンソーシアムを構築します！

五十嵐 創 株式会社土とシェフ



パーパスを軸にナラティブをどう生み出していくのが重要ということがわかった

山上 浩明 株式会社山翠舎



I-OPEN PROJECT 22

スタートアップ企業、非営利法人や個人事業主の方の体験談及び専門家のサポーター、有識者のアドバイスから、社会課題への取り組みについて共に考える特許庁主催で開催された「I-OPEN PROJECT 22」フォーラム。メンタリングに参加した I-OPENER の気づきや成果を元に、専門家のサポーターと有識者の対話を通して、社会課題解決に使える知財活用の可能性を紐解きました。



INDEX

令和4年度に参画したI-OPENER の活動の概要

- 株式会社アトリエMay
- エシカルバンブー株式会社
- 株式会社ORANGE kitchen
- 株式会社コーチャー
- 株式会社コケナワ
- 株式会社山翠舎
- 株式会社シモジマ
- 株式会社土とシェフ
- 株式会社ハタケホットケ
- 早川しょうゆみそ株式会社



株式会社アトリエMay
 塩田 真由美

<https://www.art-may.jp/>

次世代に自然や文化を繋ぐため、ヨシを活用した持続可能な事業を実施。知財を活かし、全国にヨシの活用を広げ、地域活性化への貢献も目指す。

株式会社アトリエMayは、地域資源をデザインするまちのデザイン事務所。水辺の環境を保全する多年草の植物、ヨシを活用して生まれた新たなプロダクトを提案し、次世代に自然や文化を繋ぎ、地域活性化にも貢献することを目的に事業を展開。知財を活かし、全国にヨシの活用を広げる仕組み作りとその実践を目指す。

I-OPENで取り組んだこと

- 天然繊維との混紡糸「ヨシ糸」の製造販売に必要な基本特許ライセンス受諾の条件を検討
- 知財活用のオープン・プラットフォーム戦略の構築を検討（一般社団法人設立も含む）
- 一般社団法人設立に向けたロゴマークを検討、商標調査/出願を検討

知的財産の保護・活用

- 多くの者で知財を活用するためのプラットフォーム（一般社団法人）を設立
- 商標権によるプラットフォームのブランド保護・活用

I-OPENER's voice

「このプロジェクトは大変意義深く、経営には知財が必要で、強い味方になることを実感しました。」





 ethical bamboo
 竹と共に生きる

エシカルバンブー株式会社
 田澤 恵津子

<https://ethicalbamboo.com/>

竹害から竹財へ。国産竹の葉から根までを活用した様々な製品を開発。 知財を活かし、オリジナリティを守りつつ持続可能なモノづくりを実践。

エシカルバンブー株式会社は、国産竹を原料に使用した商品企画・製造・販売を行うスタートアップ企業。竹の葉から根まですべての部位を活用した様々な製品を開発。知財なども活かして、誰も何も傷つけない持続可能なエシカルなモノづくりを実践。

I-OPENで取り組んだこと

- 模倣対策（模倣品の排除よりも模倣させない仕組み作り）
- 知財活用によるオープン・クローズ戦略を具体的に整理
- 協賛企業をまとめるプラットフォームの構築を検討、海外展開やブランディングを検討

知的財産の保護・活用

- 知財のオープンクローズ戦略の実践（ノウハウの秘匿と特許権による保護の峻別）
- 商標権によるブランド保護やプロモーション（6件の登録商標保有）

I-OPENER's voice

「知財を知る事で自社の強みも理解でき、他社との差別化ポイントを明確に打ち出す事が出来る」





株式会社
ORANGE kitchen
若子 みな美

<https://orangekitchen.co.jp/>

健康に関する社会課題解決のため、先進的保健事業などの活動を実施。行動変容に関するノウハウや商標権などを活かした活動強化を目指す。

株式会社ORANGE kitchenは、健康に関する社会課題を解決するためにヘルスプロモーション事業や保健事業を展開。行動変容のノウハウを活かしたマーケティング支援、レシピ開発・製品開発支援などを手がける。知財のオープンクローズ戦略の検討を通じて得た知見や、商標権を活かし、健康に関する社会課題の解決に向けた活動の強化を目指す。

I-OPENで取り組んだこと

- 社会課題解決に対する取り組み姿勢や想いを整理
- 事業内容に沿った知財戦略立案とオープンクローズ戦略を検討、ソフトウェア特許のIPランドスケープ分析
- 予防医療分野への事業進出に向けた構想設計と事業化に向けた検討

知的財産の保護・活用

- 知財のオープンクローズ戦略の実践（ノウハウの秘匿と特許取得の峻別）
- 商標権によるブランド保護・活用
（商標登録第6723927号・第6729594号：ほど酔い、ほどよい/hodo yoi）

I-OPENER's voice

「医療費適正化により、未来に希望が持てる社会を実現する」

強みである紙材技術等を活用した社会課題を解決するアイデアを創出。 知財を活かして新規事業を構築し、地域共生社会の実現を目指す。

株式会社コーチョーは、ペット用品/女性用生理用ナプキン/ベビー用オムツの製造・販売事業を展開する企業。強みの紙製品事業を軸とした新しい事業を念頭に、社会課題の解決に繋がる取組を検討。特許権、商標権を活かしながら、事業構築を検討し、地域共生社会の実現にも寄与することを目指す。



株式会社コーチョー
 渡邊 俊・渡邊 邦彦

<https://www.kohcho.co.jp/index.html>

I-OPENで取り組んだこと

- 主力事業の今後の事業展開や新規事業創出を検討
- 新たな分野における商標・ブランド戦略を検討、販路拡大に向けた知財の活用と課題解決を検討
- 水耕栽培用紙製シートに関する特許クリアランス調査及びクレームドラフティング

知的財産の保護・活用

- 保水紙を応用した水耕栽培用シートに関する特許取得を前提に、その活用を通じた事業構築、実施を検討

I-OPENER's voice

「自社の強みを含めた現在地を再認識した上で、思い・夢をもとに進むべき方向性が確認できた。」



株式会社コケナワ
苔縄 義宗

<https://kokenawa.co.jp/>

社会に貢献するため、世界最小クラスの携帯トイレを開発。商標権を活かしたブランディングなどを通じ、災害備品としての普及促進を目指す。

株式会社コケナワは、「地球をワクワクさせる」をコンセプトに、社会貢献事業を展開する企業。世界最小クラスの携帯トイレ「ほけっとイレ」を開発。商標権などを活かして、携帯トイレ「ほけっとイレ」の製造販売を加速させつつ、災害備品として普及促進を目指す。

I-OPENで取り組んだこと

- 携帯トイレの啓発手法とブランディングを検討
- 知財の棚卸し、模倣品対策を検討
- 携帯トイレの意匠出願を検討、海外展開に向けたネーミングを検討
- 新たな発明創出に向けた検討

知的財産の保護・活用

- 知財のオープンクローズ戦略の実践（ノウハウの秘匿と特許権による保護の峻別）
- 模倣対策（意匠・商標の活用）
- 商標権によるブランド保護

I-OPENER's voice

「防災・アウトドア用品の企画開発を通して、被災者の困りごとや負担を減らしたい」



株式会社山翠舎
山上 浩明

<https://www.sansui-sha.co.jp/>

古民家の活用を促進するため、廃材を再利用するビジネスモデルを展開。知財を活かして、古民家廃材の再利用による循環型社会の実現を目指す。

株式会社山翠舎は、古民家の活用を促進させるため、古民家廃材を再利用するビジネスモデルを展開。壁をほぼ壊すことなく建物の歪みや下りを直すことが可能な古民家ジャッキアップ工法を活用。ビジネスの海外展開も視野に、特許権や商標権を活用し、技術力強化、ブランディングを行い、古民家廃材の再利用による循環型社会の実現を目指す。

I-OPENで取り組んだこと

- 全国への事業拡張に向けたナラティブ・ブランディングを検討
- 知財戦略を検討
- 古民家ジャッキアップ工法のほか、古木3Dデータ販売、NFT（Non-Fungible Token）アプローチなどの技術・アイデアに関して特許出願を検討

知的財産の保護・活用

- 海外展開に向けたブランド保護・強化（国際商標出願：SANSUI、KOBOKU）
- 技術力強化に向けた特許権保護（特許の分割出願）

I-OPENER's voice

「パーパスを軸にナラティブをどう生み出していくのが重要ということがわかった。」



株式会社シモジマ
 佐藤 元一/学生 4 名

<https://enerfish.jimdofree.com/>

誤食から魚を守るために、人体に無害で魚が苦味を感じるポリ袋を開発。 知財を活かして製品が世の中に浸透することで海洋生物保護を目指す。

株式会社シモジマは、包装用品などを扱う専門商社。高校生と共に、人体に無害で魚が苦味を感じるポリ袋を研究開発。このポリ袋が海のごみとなったとしても、魚による誤食を防ぐことができる。商標権などを活かし、ポリ袋の製造販売を拡大することで海洋生物の保護を目指す。

I-OPENで取り組んだこと

- 事業方針の整理と可視化
- 原料配合商品の特許やポリ袋の部分意匠の出願を検討
- ロゴマークデザイン開発と商標クリアランス調査を実施

知的財産の保護・活用

- 模倣対策（ポリ袋の部分意匠などによる保護）
- 商標権によるブランド保護・活用（商標登録第6613513号：ENERFISH）

I-OPENER's voice

「海と魚を守るレジ袋を通じて海洋ごみ問題を真剣に考え、海洋国として海の豊かさをまもろう！」



株式会社土とシェフ
五十嵐 創

<https://earthandchef.base.shop/>

食品残渣・有機廃棄物から作られた完熟堆肥を使う循環型の農業を実践。 商標権を活かして、有機野菜の漬物の認証コンソーシアム構築を目指す。

株式会社土とシェフは、レストランや食品開発を手掛けながら、循環型の農業を実践。食品残渣・有機廃棄物を中心に完熟堆肥を作り、それを使い耕作を行う。土を大事にした有機栽培の良さを広める事業を推進するため、商標権を活かして、有機栽培野菜を使った漬物の認証コンソーシアム作りなどを目指す。

I-OPENで取り組んだこと

- コンポスト事業をB2C展開する上での課題を議論
- 土を大事にした有機栽培の良さをアピールするための事業構想、ビジネスモデルを検討
- 商標出願を準備、ビジネスモデルに関する特許出願を検討

知的財産の保護・活用

- 商標権を活用した認証コンソーシアム作り（有機栽培野菜を使った漬物に関するもの）
（商標登録第6719631号：Tsukemon）

I-OPENER's voice

「文化をリンカネーションするために、漬物の認証コンソーシアムを構築します！」



株式会社ハタケホットケ
 日吉 有為

<https://hhtk.jp/>

労働力と環境負荷を削減する小規模農家向け除草ロボットなどを開発。知財を活かした事業戦略を策定して全国の地域農業の活性化を目指す。

株式会社ハタケホットケは、農業の自動化と楽しさ向上を目指し、小規模農家・人材不足問題の多い地域で役立つ、農家の重労働と環境負荷を削減するロボットを開発。米農家に付加価値の高い有機米の栽培が浸透するようにフェアな対価で取引が行われるコンソーシアム構想も検討。知財を活かした事業によって全国の地域農業の活性化を目指す。

I-OPENで取り組んだこと

- 事業構想に即した知財戦略を策定
- 自社の技術力の可視化を検討（社外公開済発明の国内・外国特許出願を検討）
- 外国で通用するネーミング開発と商標出願を検討

知的財産の保護・活用

- 資金調達や将来の協業先確保のために、自社の技術力を特許出願等を通じて可視化
- 商標権によるブランド保護・活用
 （商標登録第6572980号：ミズニゴール、商標登録第6572981号：シカニゲール）

I-OPENER's voice

「テクノロジーで農業をもっと楽しく！」



早川しょうゆみそ株式会社
 早川 薫

<http://www.hayakawa-sm.co.jp/>

ふるさとの味を守りつつ、独自技術でみそを粉末とした新製品を開発。 知財を活かし、各地のみそ蔵と連携して、みそ文化を国内外に発信する。

早川しょうゆみそ株式会社は、宮崎で百年以上続く伝統産業の老舗企業。ふるさとの味を守りつつ、独自の乾燥技術でみそを粉末にした「umami・so」を開発。知財などを活用し、日本各地のみそ蔵と連携しながら、安全に配慮した有機みそを国内外に展開することで、みそ文化を発信する。

I-OPENで取り組んだこと

- 事業の将来的な方向性や課題を確認
- 粉末味噌の製造方法に関する知財レビュー
- 全国のみそ蔵と連携するためのコンソーシアム構築に向けた構想やブランディングを検討

知的財産の保護・活用

- 知財のオープン・クローズ戦略の実践に向けた取組（ノウハウによる保護と特許取得の峻別を検討）
- コンソーシアムのブランディングに向けた取組（商標権の活用意義を検討）

I-OPENER's voice

「商標の活用について思いがけない手法があることを知ることができました。同時にできること、できないことも明白になったのでとても有意義な時間をもつことができました。」

I-OPEN